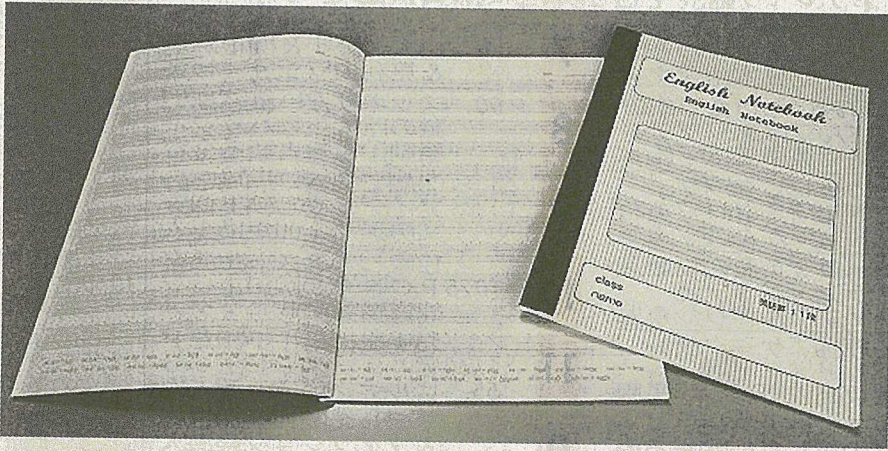


独自の工夫英語罫線ノート

被災地へ無償提供

つくばのNPO



リヴォルヴ学校教育研究所が独自に製作した英語罫線ノート

大震災で被災した地域の教育関係者に提供する。また、一般向けにも販売し、必要経費を差し引いた利益を被災地の教育環境整備に充てる準備を進めている。(飯田勉)

不登校や学習障害の子どもたちを支援しているNPO法人リヴォルヴ学校教育研究所(つくば市二の宮、小野村哲理事長)は、独自に製作した英語罫線(4線)ノート1万冊を、東日本

同ノートは英語罫11段、

B5判、64ページ。苦手を意識して軽減し、得意を伸ばすための独自の工夫を加えた。表紙裏と各ページの下部に「フォニックス(音の足し算)」に関する基礎情報を示し、つまみずきの主因とされる「音韻操作の困難」を軽減、語彙(ごい)力を増強するための学習ポイントも表紙裏に記している。

さらに目のちらつきを抑え、a、b、pなどの文字を正しい位置に書けるように4線内を薄いブルーで着色。単語と単語の間隔を適切に取れるように各行ごとにドットを打ち、マス目の目安にしている。

無料配布は、津波や原発事故で被害を受けた地域の中学校や、子どもたちの学びを支えるために開設されている放課後教室などが対象。1年生が優先となるが、英語の読み書きが困難な生徒については学年を問

わないという。

申し込みはできるだけ市町村教育委員会単位とした意向で、民間非営利団体からの申し込みも受け付けることにしている。

被災地以外については1

町見阿 補正予算を専決処分

談合和解金の使途調整つかず

阿見町は21日、18億71

14万円の今年度一般会計補正予算を専決処分した。

町環境整備工場建設時の談合和解金約4億9000万円の使い道を巡り、3月定例会で否決。年度内成立に向けて、臨時会開催を議会側と協議したが、調整がつか

なかつた。国などからの補助金を得るために必要な事務処理が間に合わないとい

判断した。

25日投開票の町議選後、4月招集の臨時会で報告し承認を求める方針。19日に議長に専決処分を通知した。

専決処分した補正予算は、否決された補正予算案とほぼ同じ内容。災害見舞金に使うよう反発が出た和解金収入は、過去2度(昨年12月、3月)の計上時と同

冊200円で販売。このほか英語プリント「リズムとパターン」で覚える不規則動詞」1万枚も提供し、小学生用英語学習ソフトウェア各50校分を3年間無償貸与する。

同研究所では不登校児童・生徒のために運営する「ライズ学園」の子どもたちの提案で、震災直後から支援活動を行い、文房具やマスク、通学用傘、花苗など約4万点を届けている。現地の教諭から「大学ノートはあっても英語罫線ノートがない」との声を受け、寄付金を活用して1万冊の

ノートを作り、昨年6月に岩手、宮城、福島3県の被災中学校に無償で提供。2012年度に向け3万冊を福島県内で印刷製本し、うち1万冊を無償提供することになった。

担当の北村直子さんは「少しでも子どもたちの学習の支援につながれば。地元で作った教材を地元で使うことで地域の活性化につながりたい」と話している。問い合わせはNPO法人リヴォルヴ学校教育研究所(電話0299・8566・8143、電子メールrise@nie.ocn.ne.jp)まで。

様に財政調整基金に積み立てる。建設事業費が過大だったことによる国庫支出金等返還(1434万円)に一部を充てる。老朽化に伴う新給食センター事業(11億9000万円)、中学校耐震化工事(2億544万円)を含む。補正予算は3月定例会最終日の8日、7対10の賛成少数で否決となった。町議